

小笠原諸島紀行

2004年8月7日から18日まで12日間、小笠原諸島に行きました。
今回は2回目で1回目は16年前の1988年でした。今回の第一の目的はリブリーザーの本格的なトレーニングで、2003年8月にライセンスを取得後2回目のファンダイブでした。第二の目的は16年前の1ダイブ目に水没したビデオのリベンジでした。

リブリーザーを取得したTDIコースディレクターの安原謙二様から日本で唯一、リブリーザーをレンタルできるリゾートのオーナーの笠井信利様を紹介して戴き、そのショップが小笠原のFISH EYEでした。

(ダイビング)

8/8～8/16まで28ダイブしました。

地球規模の天候異変で今年8月の小笠原の海は波高が高く、8/8～8/16の間、ケータへは1回も行けませんでした。母島もダイビングをしたかったのですが残念ながら、父島と母島の海面使用权問題で父島から母島へダイビングに行けませんでした。昨年、友人が母島にステイした理由がやっと分かりました。しかし、母島にステイすると母島漁協(サービス)は父島とケータへ行かないため母島周りだけしかダイビングできませんので、父島にステイしてケータと母島の両方に行けるのがベストです。

ケータと母島には行けませんでした。近場の海でハンマーヘッド、マンタ、イソマグロ、カンパチ、ネムリブカ、カメ等の大物が出て、さすが日本一の海と感嘆しました。ボートで移動中、イルカが数回現れボートの上からだけでなく、水中でも見れました。今回、クジラには遭遇できませんでしたが、時期を選べばザトウクジラ、マッコウクジラも見れるそうで、小笠原は海洋哺乳類でも日本一の海と思います。透視度平均30m、水温27～28度。

(リブリーザー)

全28ダイブの内、10本がリブリーザーでした。

当初、3日目からリブリーザーを使用する予定でしたが、お盆のピークのためダイバーが多く、ボートの上は器材で溢れていたため落ち着いてリブリーザー器材のチェック等がし難かったため、ダイバーが交代する『おがさわら丸』の入港日の午後を目掛けてリブリーザーを使用しました。お盆後半の15日、16日にはダイバーが減ったので、2日間で6ダイブすべてリブリーザーで潜りました。今回の10ダイブでリブリーザーにかなり慣れ、器材の事前組立、解体、洗浄、そして水中テクニックに自信がつけました。次回からベイルアウト器材と同様にリブリーザーを使いこなせると思います。

FISH EYEのリブリーザーは講習のものと違い最新式のため、本体裏側のカバーが両サイドからマジックでしっかり止められるため、浮上時の吸気バッグと排気

バッグの膨張がかなり抑えられています。講習ではベイルアウト器材は自分の器材を使用していましたが、FISH EYEではレンタル用リブリーザーにすべて付けていました。また、笠井オーナーはベイルアウト用レギュレータに輪ゴムを付けて首から下げたり、リブリーザー用とベイルアウト用のゲージ類を身体の前で繋げて見やすくしたり、船上でケーブル類等が散乱せず器材がコンパクトになるようにバックルを付けたり、細かいところに神経を使われて非常に便利でした。

【リブリーザー（REBREATHER）とはダイバーの排出したガスをもう1度再利用して呼吸する循環型装置。再利用の際、ダイバーが排出した二酸化炭素をソーダライム（水酸化ナトリウム、水酸化カルシウム等で精製された固形物）で吸収し、酸素濃度の高いガス（ナイトロックス）で不足分の酸素を加える事によりダイバーに十分な酸素を供給します。排出したガスを再利用するので、タンクは小さく口元から泡がほとんど出ないので、魚をかなり近くで観察することができます。テクニカルダイビングで世界的に有名なTDIでライセンスが取得できます。条件はナイトロックスのライセンスを取得していることです。】

（FISH EYE）

オーナーの笠井さんは最初、怖そうな感じでしたが、話しをすると実直で誠実な方で、かなりの理論家でした。特にテクニカルダイビングに詳しく、TDIコースディレクター安原さんのノウハウをすべて吸収しようとしていました。

おがさわら丸が入港した日、FISH EYEでは新しいゲストのために夕食後、笠井オーナーがスライドショーを開催し、小笠原の海と陸の自然について丁寧に分かりやすく説明していました。また、NHKで放送した小笠原の海の録画ビデオやテクニカルダイビングの映像等のビデオも沢山あり、ほとんど毎晩、笠井オーナーは熱っぽくテクニカルダイビングを語っていました。日本のダイビングは欧米と比較して15年遅れていることが良く分かりました。

笠井オーナーのような人が日本でもっともっと増えて欲しいと痛切に感じました。

（FISH EYEの料理）

笠井オーナーのオカミさん（笠井快子さん）の料理が大変美味でした。

今まで海外を含めてダイビングで戴いた料理の中でコスタリカ ココ島クルーズ（SEA HUNTER）、ガラパゴス諸島クルーズ（SKY DANCER）に次いで3番目に美味でした。毎晩、並べられた料理をお客さんに詳しく説明し、美しく盛り付けされた外見もさることながら、一品一品に真心を込めて作られた料理の味はオカミさんの繊細な人柄が現れていて思わずスゴイと唸りました。

次回、小笠原に来る目的がリブリーザーと水中撮影とオカミさんの料理の3つになりました。

（ガイド）

高野英明さん、日置忍さん、奥元なほみさん、西村慎太郎さんの4人のガイドがほとんど毎日、ゲストダイバーの世話をしていました。ブリーフィングはそれぞれ個

性があり、毎ダイブ丁寧に水中で見れる生物、地形、カレント、安全停止等を説明していました。4人のガイドに共通しているのは、まじめで良く働くことでした。ガイドの奥元なほみさんにマン・ツー・マンでマクロ系に近づく方法や撮影のコツを親切に教えて戴き、ハゼ系等のターゲットがレパートリーに増えました。今後、私のビデオの内容が多分変わると思います。

ダイビングのデータは通常、ダイバーが自分で調べてログブックに記入しますが、FISH EYEではガイドがすべてのデータを作成してコピーし、ダイバーに配っていました。ポイント名や魚の名前を覚えていないダイバーにとってはテストの回答を戴いたような気持ちで、本当に喜ばれるサービスだと思います。

ダイビングの合間にゲストとガイドがシュノーケルでフィッシングし、時には高級魚のアカハタを10匹以上も釣りあげていました。特に高野さんが上手でカッポレまで釣り上げ、即ボートの後ろで魚を見事にさばっていました。魚は当然ながら料理の鉄人、オカミさんの腕で見事に調理されて食卓に並び、ゲストの胃袋は大満足していました。

(器材トラブル)

到着した日の夜、いつものように撮影器材のセッティングに2時間かけ、最後にテストした時、ライトのランプが2つ共チリチリと音だけして点灯しませんでした。ビデオライトを購入した『フィッシュアイ』の大村社長から昔、笠井オーナーは大村社長が勤務していた水中カメラ専門店『タートル商会』の先輩であると聞いていましたので、アドバイスをして戴き2台共ランプを交換して点灯できました。16年前の1ダイブ目にビデオが水没しているので、今回は自宅でいろいろ器材テストをしましたが、ライトの点灯テストだけを忘れていました。ビデオはライトが命です。もしライトが点灯しなかったら今回も水中撮影が出来ずに無念の思いで後悔していたと思います。

8 / 13の2本目の水中撮影中にビデオのA U T Oが機能しなくなり、3本目は止む無くすべてマニュアルで撮影し、宿へ帰ってチェックしたところ、完全にA U T O機能は故障していました。水中用と陸上用と2台のビデオを使い分けていたので、海用と陸用を交換して以後の水中撮影は無事にできました。

その他にライトバッテリーチャージャー1台が故障し、メインレギュレータ用ホースカバーが割れ、水中ハウジングの外側ファインダー用ゴムカバーが剥離し、コントロールスイッチ内側パーツが剥離しました。

(ダイビングトラブル)

ある日、ベイルアウト器材でエントリーし、水面でいつものようにガイドから撮影器材を受け取った時、若干上向きになったので腹筋に力が入りウエイトベルトが身体から外れて落ちました。エキジット後、ベルトのバックルを調べると使い過ぎによりバックルが磨耗して甘くなっていました。ダイビング中にベルトが外れるとドロップオフの場合、海底の石を探してB Cに入れることが不可能になり、重大な身体トラブルに発展する場合があります。

ベイルアウト器材では何とか身体トラブルにならないように水面まで浮上できる自信はありますが、リブリーザーは循環型器材のため吸気バッグと排気バッグが浮上時にかなり膨張し対処が難しくなります。

リブリーザーのゴールデンルールでは緊急時にはベイルアウト器材に切替えて速やかに浮上することになっています。しかし、切替えが出来ても吸気バッグと排気バッグのガスを完全に抜かないと吹き上げ現象になり危険です。この作業はかなり熟練を要しますので、危機管理をしてこれ以降のダイビングはF I S H E Y Eのレンタルベルトを使用しました。このF I S H E Y Eのベルトが非常に良かったので、後日笠井オーナーに売って戴きました。バックルが非常にしっかりしていて、ベルトが黄色で水面からでも簡単に探すことができます。今回のトラブルは水深10mぐらいでしたが、黒色のベルトは水面から探すのは非常に難しいです。

(サンセット)

三日月山(204m)の展望台からサンセットを撮影するため2日間通い、2日目に雲の合間からすばらしい夕日が出て、沈むまで撮影できました。その時に珍しい自然現象のグリーンフラッシュが出ました。

(お祭り)

8/14はお祭りで盆踊りがあり沢山の露店が立ち並び、この日の夕食は露店のハシゴでした。盆踊りは地元の人と観光客が沢山入り乱れて小笠原音頭、マッコウ音頭等で盛り上がっていました。

数年前にNHKで放送されたサワラ漁のセボリーお爺さんのご家族が『瀬堀養蜂園』のハチミツを売っていたので、セボリーお爺さんのことを尋ねると昨年、ガンで亡くなられたと云われ、是非お会いしたかったので大変残念でした。記念にハチミツを1ダース買い、お土産として配りました。盆踊りの合間に花火大会があり、ビデオには撮影しませんでした。しっかりと脳裏に撮影しました。

(お土産)

おがさわら丸のレストランと階段にマッコウクジラの大きなポスターが貼ってあります。私はマッコウクジラが大好きで99年にポルトガル領アゾレス諸島ピコ島で水中撮影をし、マッコウクジラの歯が欲しくて2つの島内を探し回りました。

今回もマッコウクジラの木彫りとTシャツを探してお土産屋さんを回りましたが、中々見つからず、ある店でやっと見つけた木彫りは、ずっと売れずにホコリを被っていましたが買うことにしました。最近のTシャツはアニメ調の文字でシンプルなデザインに人気があり、大きな絵柄や写真をプリントしたものは売れないそうです。ハワイのラッセンがクジラ、イルカ、熱帯魚などをたくさん描いた絵をプリントしたTシャツが長い間売れずにたくさん残っていたので交渉した結果、3,800円が2,500円まで安くなったため、まとめて6枚買いました。

ある日F I S H E Y Eのビートマスター が満員だったので、レッドシャーク2(川島 英勇さんの船)に乗りました。川島さんの素朴な人柄が気に入り、川島さ

んと話し合っている内に帽子を交換することになりました。川島さんの帽子は真っ赤で前には大きな漢字で『硫黄島』とあり、硫黄島に上陸しないと買えない貴重な帽子であることがわかりました。現在、一般人は硫黄島には上陸できませんので、この帽子は今回の旅行で戴いた最高の記念になり、川島さんの良い思い出になりました。

(おがさわら丸)

16年前の船は片道28～30時間かかり良く揺れるためレストランは閑古鳥が鳴いていました。その代わりに胃にもたれない大きなメロンパンがすぐに売り切れていました。今回はそのつもりで、乗船後すぐに大きなメロンパンを食事用にたくさん買い占めました。しかし、いざ船が動くと16年前と違って余り揺れません。実は船が新しく建造されていたのです。朝食と昼食は頑張って食べましたが結局、大きなメロンパンはたくさん余ったので、宿で朝食用にと思って持ち込みをしたところ、オカミさんの料理に圧倒されてまったく役に立たず、勿体ないと思いながら仕方なく処分することになりました。

船の別れはドラの音や汽笛や出港時の音楽も合わさって、他の移動手段より一層悲しいものです。見送りの人が桟橋にたくさん来て、デッキには帰る人がたくさん並び、いつまでもお互いに手を振っていました。ダイビング船、漁船等たくさんの船がおがさわら丸に別れを惜しみながら湾の外まで伴走して見送っていました。

最も印象的だったのは最後の一隻になった川島さんの船(レッドシャーク2)で他の船が戻って行っても、いつまでも付いて来て大変感動しました。

時々、私の横近くまで来て私がタオルを振ると川島さんも同じようにタオルを振り、観光客からワッーと歓声が上がって涙が出そうでした。

『あとがき』

16年前の記憶はメインストリートにダイビングショップが2軒とお土産屋が2～3軒あるだけでガランとしていて、メインストリートから中へ入ると民家と民宿がポツンポツンとあって、その間にグアバ麺屋さんと他に貝細工屋さんカラオケ屋さんがあるだけでした。

今は海手にたくさんのいろんな店が建ち並び、山手には共同アパートのような建物や1戸建住宅がたくさん建っていて16年の歳月の長さを感じました。

尚、小笠原は元米国領のため英語でBonin Islandsと呼び、欧米人にはOgasawaraではほとんど通じません。

今回の旅行でお世話になった以下の皆様及び関係者の方々に心から感謝します。

笠井 信利様 (FISH EYEオーナー、ビートマスター 船長、
JCS・CMASマスターインストラクター、TDIトライミックスインストラクター)

笠井 快子様 (オーナーの奥様、料理の鉄人)

高野 英明様 (PADIマスタースクーバダイバートレーナー、TDIトライミックスインストラクター)

日置 忍様 (PADIオープンウォーターインストラクター、TDIトライミックスインストラクター)
奥元 なほみ様 (NAUIインストラクター、TDIトライミックスインストラクター)
西村 慎太郎様 (BSACインストラクター)
内田 育美様 (FISH EYEヘルパー)
川島 英勇様 (レッドシャーク2船長)

以上
浜谷 優